

# 令和4年度 学校評価実施報告書

幼稚園名（みつば幼稚園）

## 教育目標

夢中になって遊び、  
心豊かにたくましく  
生きる力の基礎を培う

## 年度末の最終評価

自己評価	<p>教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し</p> <p>各学年や個々の発達に応じた、環境構成や学級や個に対する援助の在り方を園全体で協議したり、実際に環境の見直しを複数の教職員が共同で行ったりしたこと、一人一人の子どもや学年集団としての育ちがみられた。</p> <p>全学年とも、様々な場面で夢中になる姿がみられた。その中で3歳児『安心感に基づいた自立の芽生え』4歳児『経験の幅を広げ、自分でやってみようとする姿』『周囲の友達の気持ちを感じ、自分の気持ちをコントロールする力』5歳児『自分の思いや考えを以前に比べ、自信をもって表す姿』『友達と協働で遊びを創り出す力』『粘り強く、工夫してやり遂げる力』などが育った。</p> <p>次年度に向けて、さらに園全体でさらに子どもたちにとって『安心し、わくわくできる』環境づくり・学年や個々の子どもの『今』を的確にとらえる研修や教職員間での学び合いを大切にしていきたい。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>様々な行事や、日常の保育の様子などを見て、子どもたちの主体性が育ってきていることがよくわかる。また徐々に地域行事なども復活し、子どもたちにとってより広い世界に目を向けられるようになってきている。</p> <p>来年度も引き続き、地域行事や、図書活動また子育て支援などの分野での支援を強化していきたい。</p>

## 学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	R4・11月	学校運営協議会（書面+動画配信）
最終評価	R5・3月	学校運営協議会

## （1）幼稚園教育（保育の改善・充実）について

### 具体的な取組

- ・子どもが心をゆらしている瞬間を見取り、一人一人の『その子らしさ』を的確に捉えることで幼児理解を深める。
- ・戸外での遊びや体を動かす遊びに意欲的に取り組めるように、環境構成や援助を見直すとともに、安全な遊具の使い方を発達に応じて指導する。
- ・健康や衛生面（特に感染症対策）について、子どもの実態から毎週ポイントを絞って、指導する機会を設ける。
- ・季節に応じた飼育栽培活動やその他の動植物との関わりを通して、豊かな心を育てる。

- ・保育での読み聞かせや、絵本貸し出し、「親子で絵本！」を活用し、子どもが親や教師と触れ合いながら絵本や物語に親しみを深める。
- ・一人一人の興味関心を理解し、子どもが心を動かし思いを表現したくなったりするような、豊かな環境づくりや教材の工夫をする。
- ・互いにありのままの思いを主張する機会を大切にし、自分と相手の思いの違いに気付いたり、葛藤したりする姿を受け止める。
- ・個々の子どもの課題や具体的な支援の在り方を明確にする。

(取組結果を検証する) 各種指標

- 週末のミニ園内研修での園環境の見直し内容や、幼児理解の内容
- 週案をもとにした、保健指導や日々の感染対策への指導や安全指導の振り返り
- 「親子で絵本ノート」の活用状況の把握と学級での読み聞かせの冊数
- 保護者アンケート
  - ・幼稚園生活の中で成長したと思われますか
  - ・夢中になって遊んでいると感じるときはありますか
  - ・園で身近な自然にかかわり、季節を感じる体験をしていますか
  - ・体を動かして遊ぶことを楽しんでいますか
  - ・自分の身の回りのことを自分でしようとするようになってきましたか
  - ・生活や遊びの中で、必要なルールやきまりがわかり、守ろうとしていますか
  - ・絵本やお話を興味を持つようになってきましたか

中間評価

各種指標結果

- 週末のミニ園内研修での園環境の見直し内容や、幼児理解の内容
 

1学期、各学年のスタート時に、週1回のミニ園研の中で、一人一人の幼児やクラス全体の実態の把握を特に丁寧に行い、保育の充実に努めることができた。2学期以降は月に1~2回の教員全体や学年別での話し合いの機会を週に1回以上もつことで、より深い幼児理解や、適切な環境構成や活動に努めることができた
- 週案をもとにした、保健指導や日々の感染対策への指導や安全指導の振り返り
 

週案の中に、保健指導や安全指導の内容も明示し、よりその時々の幼児の実態に即した指導ができるように心掛けた。
- 「親子で絵本ノート」の活用状況の把握と学級での読み聞かせの冊数
 

ほぼ全園児が親子で絵本ノートを活用している。

学級では、全学年とも、週に約4冊の本の読み聞かせを実施している
- 保護者アンケート
  - ・幼稚園生活の中で成長したと思われますか
 

99%の保護者が そう思うまたはとてもそう思うと回答
  - ・夢中になって遊んでいると感じるときはありますか
 

100%の保護者が そう思うまたはとてもそう思うと回答
  - ・園で身近な自然にかかわり、季節を感じる体験をしていますか
 

99%の保護者が そう思うまたはとてもそう思うと回答
  - ・体を動かして遊ぶことを楽しんでいますか

	<p>98%の保護者が そう思うまたはとてもそう思うと回答</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活や遊びの中で、必要なルールやきまりがわかり、守ろうとしていますか</li> </ul> <p>97%の保護者が そう思うまたはとてもそう思うと回答</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の身の回りのことを自分でしようとするようになってきましたか</li> </ul> <p>96%の保護者が そう思うまたはとてもそう思うと回答</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本やお話に興味を持つようになってきましたか</li> </ul> <p>95%の保護者が そう思うまたはとてもそう思うと回答</p>
自己評価	<p><b>分析（成果と課題）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ミニ園内研修や園内研修を定期的に行うことに加え、日々の教職員同士や担任と管理職との話し合いの時間を確保することで、多様な活動や個別に適した活動を保育の中で展開すること緒ができている。さらに、具体的な活動や援助の在り方についての協議を深めていきたい。</li> <li>・保健・安全指導は、個別の状況に応じて、理解し実行しやすいような指導を行う工夫を重ねている。特に安全指導に関してはさらに幼児に伝わりやすい指導の在り方について検討していきたい。</li> <li>・絵本やお話への興味は、保護者も実感しておられるように、着実に高まっている。ただし各家庭により、関心度や取り組み方には違いがある。</li> </ul>
	<p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・さらに、日々の保育の中での、一人一人の幼児の姿やクラスの実態を多角的にとらえ、最適な援助や環境構成ができるように、教職員での協議を深める。</li> <li>・特に3歳児に対して、安全に活動できるように教師の援助の在り方や、環境の整え方などについての工夫を重ねる。</li> <li>・より多くの幼児の絵本やお話への興味を高めるために、まずは絵本室の環境をさらに園児たちにとって魅力的になるような工夫をする（カテゴリ一分けを変える・読み聞かせの展示方法など）</li> </ul>
	<p><b>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○週末のミニ園内研修での園環境の見直し内容や、幼児理解の内容</li> <li>○週案をもとにした、保健指導や日々の感染対策への指導や安全指導の振り返り</li> <li>○「親子で絵本ノート」の活用状況の把握と学級での読み聞かせの冊数</li> <li>○保護者アンケート <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園生活の中で成長したと思われますか</li> <li>・夢中になって遊んでいると感じるときはありますか</li> <li>・園で身近な自然にかかわり、季節を感じる体験をしていますか</li> <li>・自分の身の回りのことを自分でしようとするようになってきましたか</li> <li>・生活や遊びの中で、必要なルールやきまりがわかり、守ろうとしていますか</li> <li>・絵本やお話に興味を持つようになってきましたか</li> </ul> </li> </ul>
学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者が幼稚園に対して、信頼感を持ち、子どもたちの成長を感じておられることが、よくわかつて、安心できる結果となっている。</li> <li>・今後も、絵本ボランティア・地域行事との連携などで、特に協力していきたい。</li> </ul>

### (中間評価時に設定した) 各種指標結果

#### ○週末のミニ園内研修での園環境の見直し内容や、幼児理解の内容

2学期末・3学期初めの時期は、他の園内外行事のため、ミニ園内研修の回数自体は減少傾向がみられたが、毎日の教職員間の協議の時間や場を保証し、活発化することができた。

#### ○週案をもとにした、保健指導や日々の感染対策への指導や安全指導の振り返り

保健職員が中心となって、時々の園児の健康状態や様々な感染症罹患の状態を、的確に把握し、感染拡大を防ぐことができた。

#### ○「親子で絵本ノート」の活用状況の把握と学級での読み聞かせの冊数

以前に比べ、多くの保護者が『コメント』欄にも記入しようとする姿がみられる。またクラス担任が活用状況を月ごとに把握し、保護者とともに『絵本タイム』を充実できるように声をかけることができた。

全学年とも、引き続き、週に約4冊の本の読み聞かせを実施し、それぞれのクラスの子どもたちの興味やクラスのねらいに添った本を集中的に集めて、配架するなどの工夫も行っている。

#### ○保護者アンケート

##### ・幼稚園生活の中で成長したと思われますか

98%の保護者が そう思うまたはとてもそう思うと回答 (年長・年中児は 100%)

##### ・夢中になって遊んでいると感じるときはありますか

98%の保護者が そう思うまたはとてもそう思うと回答 (年長・年中児は 100%)

##### ・園で身近な自然にかかわり、季節を感じる体験をしていますか

97%の保護者が そう思うまたはとてもそう思うと回答

##### ・体を動かして遊ぶことを楽しんでいますか

99%の保護者が そう思うまたはとてもそう思うと回答

##### ・自分の身の回りのことを自分でしようとするようになってきましたか

92%の保護者が そう思うまたはとてもそう思うと回答 (年長児は 100%)

##### ・生活や遊びの中で、必要なルールやきまりがわかり、守ろうとしていますか

100%の保護者が そう思うまたはとてもそう思うと回答

##### ・絵本やお話を興味を持つようになってきましたか

98%の保護者が そう思うまたはとてもそう思うと回答

### 自己評価

#### 分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題

・ミニ園研や園内研修だけでなく、日常の『話し合い』のなかで、園内環境（特に保育室）や、個々の子どもに対する援助、育ちの捉えなどを丁寧に見直すことができた。これにより、一人一人の子どもの安定感がさらに増し、友達の気持ちに気付く、友達と協力する、少し難しいことにもあきらめずに取り組むなどの姿がよく見られるようになってきている。

また、教職員はこれらの『話し合い』で明らかになったことを、実際の環境の変更や追加、援助の仕方を変えるなど、教職員自身の行動も変容してきている。

・感染拡大防止だけではなく、毎月の『保健指導』ではそれぞれの学年に必要な内容を取り上げ、子ども自らの気づきや『行動の変容』がみられることが多くなってきた。

・絵本室内の絵本の置き方や掲示の工夫・保育室にそろえる絵本や図鑑類の選び方などの工夫を行ったことで、以前にも多くの子どもや保護者の方が絵本への興味が深まっている。

#### 分析を踏まえた取組の改善

・日々の保育の見直しに加え、個々の子どもの姿や焦点を絞った『エピソード』をさらに多く作

	<p>成し、教職員全体で協議することで、幼児理解や援助、環境構成などなどをより丁寧に行えるようとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・さらに、保護者の方々や地域とも連携し、一人一人の子どもたちがより『自信』を高め、『自己発揮』できるような、また『多様性』を感じられるような保育を行う。</li> <li>・より多くの保護者の方々に絵本やその他の様々な『子どもたちとの楽しい時間』を過ごせるようなツールを積極的に提案できるようにする。</li> <li>・引き続き、絵本室や保育室以外の共有スペースの環境の充実も目指す。</li> </ul>
学校 関 係 者 評 価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、絵本室を中心とした環境構成の取組に積極的に関わっていきたい。</li> </ul>

## (2) 幼小連携・接続について

	<p><b>具体的な取組</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児期の育ちを、小中学校等にもわかりやすく発信する。</li> <li>・ICTを活用した連携の在り方を探り、コロナ禍でも実施可能な年間計画を作成する。</li> <li>・個々の箸やパスなど用具の持ち方や筆圧などの現状を捉え、遊びや生活の中で個の発達に応じた指導をする。</li> </ul> <p><b>(取組結果を検証する) 各種指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○年間計画の作成と進捗状況及びICTを活用した幼小連携の振り返り</li> <li>○小学校との連携から見直した接続期カリキュラムに基づいた取組</li> </ul>
--	--

### 中間評価

	<p><b>各種指標結果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○年間計画の作成と進捗状況及びICTを活用した幼小連携の振り返り           <p>直接的な園児と児童の交流の経験をすることはコロナ禍のため困難であった。 教職員はKKPの研修を通じて交流のきっかけをもつことができた。</p> </li> <li>○小学校との連携から見直した接続期カリキュラムに基づいた取組           <p>幼稚園側の『接続期カリキュラム』作成の基礎となるように、週案をもとに、日々の保育を見直している。</p> </li> </ul>
--	--

自己 評 価	<p><b>分析 (成果と課題)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度初めは、引き続きコロナ禍のため、園児と児童の直接的な交流の機会をもつことは困難であったが、KKPの取組としての教職員研修の場で、ICT機器も活用し、幼児期の生活や発達の様子や教師の援助や環境の在り方について共有することができた。</li> <li>・ICT機器を活用して園児と児童との交流の間接的ではあるが、心のつながる交流を行っていきたい。</li> </ul> <p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在計画中である『みつば幼稚園オープンスクール(仮称)』を2学期末から3学期初めに実施し、まずは教職員同士の理解を深める取り組みを行う。</li> <li>・幼稚園の子どもたちのメッセージなどの入ったビデオレターなどを作成し、小学校で視聴していただく。</li> </ul>
--------------	---

	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <p>○年間計画の作成と進捗状況及び ICT を活用した幼小連携の振り返り</p> <p>○小学校との連携から見直した接続期カリキュラムに基づいた取組</p>
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ICT 機器の活用などの努力が伝わってきた。</li> <li>・ 地域からも、小中学校に働きかけ、今の状況下で『できる形』で積極的に行えるようにする。</li> </ul>

### 最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <p>○年間計画の作成と進捗状況及び ICT を活用した幼小連携の振り返り</p> <p>週案や月間指導計画をもとに、接続期のカリキュラム（幼稚園側）の作成が進行中である。</p> <p>○小学校との連携から見直した接続期カリキュラムに基づいた取組</p> <p>本年度『みつば幼稚園オープンスクール』を開催することができ保・小・中の教職員が参加された。</p>
自己 評 価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・接続期のカリキュラムは来年度以降、小学校とともに作成できるよう、今年度は園側での構想を固めることができた。また、K K P の取組の中で、中学校までを見通した育ちの基礎となる保・幼の育ちの大切さやポイントなどを話し合うことができた。</li> <li>・幼小での児童一園児をつなぐ I C T を活用した取組を、今年度は実施することはできなかつたが『オープンスクール』の取り組みを通して、教職員同士のコミュニケーションが深まった。またその中では、連携の在り方について協議が進んだ。</li> </ul> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度以降、1年生の教室の環境つくりを小・幼が共同で行う計画が実行される予定である。この実績をもとに、他の地域の小学校にも働きかける。またカリキュラムに関しても、2~3年計画で可能な小学校から共同で作成していく。</li> <li>・来年度からは徐々に、コロナ後も見据えて、可能な限り、児童一園児が『直接出会う』活動も再開できるように、小学校への働きかけを行う。</li> </ul>
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活発に児童・園児の交流ができていた、コロナ禍前の状態に、まずは戻ることを願っている。また、園=小学校というつながりだけでなく、地域としても、学校間連携をサポートしてきたい。</li> </ul>

### (3) 預かり保育について

	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・早朝登園時の様子、保育中の様子・健康状態や子ども同士の関係性など、預かり保育担当者とクラス担任、および家庭と連絡を密にする。</li> <li>・個々の興味に応じた遊びをゆったりと楽しめる環境構成を行う。</li> <li>・異年齢が関わる場であることを意識し、特に感染拡大防止対策に留意する。</li> </ul> <p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <p>○週案立案や、担当者と担任や管理職との協議の中での、活動内容と、感染症対策の振り返りを行う</p>
--	---

○保護者アンケート

- ・保護者の方にとって。預かり保育は子育て支援として役立っていますか
- ・預かり保育でも子どもたちは安心して過ごしていますか

中間評価

各種指標結果

○週案立案や、担当者と担任や管理職との協議の中での、活動内容と、感染症対策の振り返りを行う

○保護者アンケート

- ・保護者の方にとって。預かり保育は子育て支援として役立っていますか  
100%の保護者が そう思うまたはとてもそう思うと回答（利用されてない保護者は除く）
- ・預かり保育でも子どもたちは安心して過ごしていますか  
95%の保護者が そう思うまたはとてもそう思うと回答（利用されてない保護者は除く）

自己評価

分析（成果と課題）

- ・丁寧な週案立案や週の振り返りを心掛けることで、預かり保育の利用時間が短い園児や長い園児、両者にとって『安心した時間』となりつつある。
- ・学年が上がるにつれて、安心感が高まっている。特に3歳児の個別のニーズに応じる援助の工夫をする。

分析を踏まえた取組の改善

- ・週案の振り返りの共有を深め、預かり保育においてもさらに子どもたちが安心して夢中になれる環境構成を工夫する。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

○週案立案や、担当者と担任や管理職との協議の中での、活動内容と、感染症対策の振り返りを行う

○保護者アンケート

- ・保護者の方にとって。預かり保育は子育て支援として役立っていますか
- ・預かり保育でも子どもたちは安心して過ごしていますか

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・預かり保育の状況を、理事が見学する機会もつくる。
- ・利用者数が増えている状況で、人的なサポートも将来的に考えていきたい。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果

○週案立案や、担当者と担任や管理職との協議の中での、活動内容と、感染症対策の振り返りを行う

○保護者アンケート

- ・保護者の方にとって。預かり保育は子育て支援として役立っていますか  
利用されている方の 99%の保護者が そう思うまたはとてもそう思うと回答
- ・預かり保育でも子どもたちは安心して過ごしていますか  
利用されている方の 96%の保護者が そう思うまたはとてもそう思うと回答

自己

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

- ・前期に比べ、新2号認定の園児も増え、早朝・通常預り共に、利用者は増加傾向にある。

評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>担当教員に加え、本園教職員・子育てボランティア・学生ボランティアなども参加し、預かり保育においても、よりきめ細かに一人一人の子どもの気持ち・願いに寄り添えるようにしたことにより、子どもたちの『安心感』は高まっている。</li> </ul>
	<p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>さらに『短時間でも夢中になれる（早朝時）』『通常保育後ゆったりと一人でも集中できる』『他学年ともかかわる』『参加する頻度がさまざまである』…などにも対応できる活動や場の校正の仕方の工夫を重ねる。</li> <li>早朝預かり保育の『登園時間』や、保護者の方々のニーズにこたえて『降園時間』を柔軟に対応できるようにしたいが、安全対策や活動の充実が最重要であるため、保護者の方々のご理解を得られるように努めていく。</li> </ul>

学校 関係 者 評 価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、地域にも『みつば幼稚園』の預かり保育の内容や時間についても周知できるようにしていく。</li> <li>ボランティア人材の確保などにも協力していく。</li> </ul>
-------------------------	--

#### (4) 子育ての支援に関して

	<p><b>具体的な取組</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個人懇談会やクラス懇談会、登降園時を活用した家庭とのきめ細かな連絡・連携を行う</li> <li>未就園児親子が安心して好きな遊びを十分に楽しむ場や子育ての喜びや不安を話せる場となる教育相談を行う。</li> <li>ホームページ掲載や地域・小規模保育事業所へのチラシ配布など教育相談を広く発信する。</li> </ul> <p><b>(取組結果を検証する) 各種指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日々の家庭との連絡・連携の振り返りと園だよりやホームページでの教育活動の発信</li> <li>教育相談の内容の振り返りとホームページでの発信回数</li> <li>保護者アンケート <ul style="list-style-type: none"> <li>教職員に話しかけやすい雰囲気がありますか</li> <li>幼稚園生活の様子はわかりやすいですか</li> </ul> <p>(おたより・参観・懇談・ホームページ・日々の話合いなど)</p> </li> </ul>
--	--

#### 中間評価

	<p><b>各種指標結果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日々の家庭との連絡・連携の振り返りと園だよりやホームページでの教育活動の発信 懇談だけでなく、毎日の保育前後の保護者との話し合いの内容を、必要に応じて他の教職員と共有している 園だよりは、内容を精選し『読みやすく・伝わりやすい』ものになるような工夫を重ねている。 ホームページの発信回数は、少ない時期があった。</li> <li>教育相談の内容の振り返りとホームページでの発信回数 教育相談は参加者の年齢層や参加数に応じて、内容の工夫を行っている。 ホームページを活用して、活動内容を前月にお知らせや活動結果を発信した。</li> <li>保護者アンケート <ul style="list-style-type: none"> <li>教職員に話しかけやすい雰囲気がありますか</li> </ul> </li> </ul>
--	---

自己評価	99%の保護者が そう思うまたはとてもそう思うと回答
	・幼稚園生活の様子はわかりやすいですか（おたより・参観・懇談・ホームページ・日々の話合いなど）
	87%の保護者が そう思うまたはとてもそう思うと回答
分析（成果と課題）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9月から新規導入された連絡アプリを最大限に活用し、保護者にとってもわかりやすく、効率的に利用できるような方法を模索している。</li> <li>・教育相談（未就園児クラス）は前年度よりも回数を増やすことができ、利用者数も増加している。</li> </ul>
分析を踏まえた取組の改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さらに保護者との連携を進め、その内容を必要に応じてさらに的確に園全体で共有し、一人の一人の園児を支えていくようにする。</li> <li>・ホームページをコンスタントにアップできるような園内での分担の見直しを行う</li> <li>・日常の保育や行事の様子を、登降園時や懇談・参観時に映像で伝える。</li> </ul>
(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日々の家庭との連絡・連携の振り返りと園だよりやホームページでの教育活動の発信</li> <li>○教育相談の内容の振り返りとホームページでの発信回数</li> <li>○保護者アンケート <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員に話しかけやすい雰囲気がありますか</li> <li>・幼稚園生活の様子はわかりやすいですか</li> </ul> </li> </ul> <p>(おたより・参観・懇談・ホームページ・日々の話合いなど)</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員と保護者との『信頼関係』は基本的に安定的に築けていると感じている。 今後ともこの『きずな』を大切にしていってほしい。</li> <li>・教職員の負担を最小限にしつつ、子どもたちの育ちの様子を、保護者や地域に発信する『方法』を模索していってほしい。</li> </ul>

## 最終評価

自己評価	(中間評価時に設定した) 各種指標結果
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日々の家庭との連絡・連携の振り返りと園だよりやホームページでの教育活動の発信</li> <li>○教育相談の内容の振り返りとホームページでの発信回数</li> <li>○保護者アンケート <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員に話しかけやすい雰囲気がありますか</li> </ul> </li> </ul> <p>98%の保護者が そう思うまたはとてもそう思うと回答</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園生活の様子はわかりやすいですか</li> </ul> <p>(おたより・参観・懇談・ホームページ・日々の話合いなど)</p> <p>95%の保護者が そう思うまたはとてもそう思うと回答</p>
分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常の在園児や未就園児保護者の方との話し合いの時間の確保や、教職員間の情報共有は、ほぼ徹底されてきているが、来年度も繰り返し教職員間で共通理解できるようにする。</li> <li>・幼稚園生活の様子のは前期に比べて『わかりやすい』のポイントがアップしてきている。引き</li> </ul>

	<p>続き、新規連絡アプリやホームページの活用・一人一人の育ちをわかりやすく伝える工夫などを行う。</p> <p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、教職員全員が保護者の方々や子どもたちに対して、いつ声をかけられても、『笑顔』で誠意をもって対応すること、必要な情報は必要な教職員で速やかに共有すること、また必要に応じて、別日・別の場所を設定して話し合いを気軽に行えるようにすることを徹底する。</li> <li>・保護者の方々にとっても『まずは園に聞いてみよう』『相談してみよう』と、思っていただけないように、日常的な話し合いや『おたより』などでも働きかけていく。</li> </ul>
学校 関係 者 評 価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の満足度は高いものと思われるが、さらに個々へ対応を丁寧にしていってほしい。</li> <li>・多忙化している中ではあるが、保護者とのつながりは特に『みつば幼稚園』やこの地域の中ににおいては、重要なことと考えているので、園側のさらなる努力や工夫を望んでいる。</li> </ul>

## (5) 地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）について

	<p><b>具体的な取組</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・隣接する高齢者施設のことを知り、つながりを感じられるような交流を、ICTの活用や手紙、栽培活動を通して進める。</li> <li>・中学校との連携やICTを活用した交流を行ったり、PTA活動や学校運営協議会と連携した地域行事を保護者に案内し参加を呼び掛けたりする。</li> </ul> <p><b>(取組結果を検証する) 各種指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○高齢者施設との交流の回数（リモートなど間接的なものも含む）と、活動の振り返り</li> <li>○上京中学校との交流や連携の回数と、活動の振り返り</li> <li>○地域行事への参加の様子の振り返り</li> <li>○保護者アンケート <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域とのつながりの中で、子どもたちの育ちがみられますか。</li> </ul> </li> </ul>
--	---

### 中間評価

	<p><b>各種指標結果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○高齢者施設との交流の回数（リモートなど間接的なものも含む）と、活動の振り返り <ul style="list-style-type: none"> <li>施設利用者の方々に子どもたちの『元気』を伝えるためのビデオレターをお渡しし、視聴していただいた。</li> <li>一部の利用者様との短い時間であったが、手紙を届けるなどの交流を再開した。</li> <li>新規の取組として施設主催の『車いす体験』に5歳児が参加した。</li> </ul> </li> <li>○上京中学校との交流や連携の回数と、活動の振り返り <ul style="list-style-type: none"> <li>上京中学校2年生の家庭科の授業の中での『ふれあい体験』の受け入れを再開し、4・5歳児が交流する機会をもつことができた。</li> </ul> </li> <li>○地域行事への参加の様子の振り返り <ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍は継続しているが、地域行事の再開が始まりつつある。園単位での参加は今年度は困難であった。しかし園から積極的に保護者にお知らせをすることにより、家庭から様々な行事に参加する機会は多くなってきている。</li> </ul> </li> <li>○保護者アンケート</li> </ul>
--	--

<p>・地域とのつながりの中で、子どもたちの育ちがみられますか。</p> <p>68%の保護者が そう思うまたはとてもそう思うと回答</p> <p>19%の保護者が わからないと回答</p>	
自己評価	<p><b>分析 (成果と課題)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者施設との、直接的な交流の再開へのハードルは現状からして厳しいが、引き続き間接的・一部分であっても、園児にとって隣接する施設やその利用者様や職員の方々への親しみや見守っていただいているという安心感がもてるような取り組みの工夫を行う。</li> <li>・園ぐるみで、地域行事への参加は困難な状況は続いているが、園から積極的に保護者にお知らせをすることにより、家庭から様々な行事に参加する機会は多くなってきている。</li> <li>・地域とのつながりの中での子どもたちの育ちがみられますか。の設問にたいし19%の保護者が『わからない』と回答しておられる実態は、園からの発信不足も一因であると考える。</li> <li>・地域に、毎月園の『おたより』その他を発信することを続けていることで、園の日常の取組や、園での子供の育ち、保育の中で『大切にしていること』を、様々な立場の方に知っていただいている。</li> </ul> <p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特に地域とのつながりの中での園児の取組の様子や育ちを、保護者や地域の方にわかりやすく伝える。(ホームページや画像を視聴していただく機会を作るなど)</li> <li>・上京中学校との交流などでは、事前協議は行っているが、短時間であっても事後協議を行えるよう申し出る。</li> </ul> <p><b>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○高齢者施設との交流の回数 (リモートなど間接的なものも含む) と、活動の振り返り</li> <li>○上京中学校との交流や連携の回数と、活動の振り返り</li> <li>○地域行事への参加の様子の振り返り</li> <li>○保護者アンケート</li> <li>・地域とのつながりの中で、子どもたちの育ちがみられますか。</li> </ul>
学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍においても『なんとかつながろう』という園側の思いはよく伝わってきている</li> <li>・地域行事が再開される中、子どもも保護者も『地域で育つ』という雰囲気を感じる機会となっている。</li> </ul>
<p><b>最終評価</b></p> <p><b>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○高齢者施設との交流の回数 (リモートなど間接的なものも含む) と、活動の振り返り</li> <li>○上京中学校との交流や連携の回数と、活動の振り返り</li> <li>○地域行事への参加の様子の振り返り</li> <li>○保護者アンケート</li> <li>・地域とのつながりの中で、子どもたちの育ちがみられますか。</li> </ul> <p>69%の保護者が そう思うまたはとてもそう思うと回答</p> <p><b>自己評価</b></p> <p><b>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者施設との直接的な交流は、今年度は困難であったが、日常的な園生活の中で、担任やその他の教職員によって、隣接した施設内におられる高齢者の方の存在のあたたかさを伝えられる</li> </ul>	

価値	<p>用の言葉かけを行っている。これにより、子どもたちとて、高齢者の方々への親しみを感じるきっかけとなっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・K K Pとして共同で行う『あいさつ運動』を年長児が積極的に行い、上京中学校だけではなく地域としての『連帯感』を感じることができた。</li> <li>・地域行事も再開され、徐々に『地域の中の幼稚園』であるというイメージが保護者の中にも浸透しつつある。</li> <li>・今後さらに地域との『目に見える』形での交流の回数も増えてくることが予想されるので、その中の育ちの姿をより丁寧に保護者の方に伝えていく必要がある。</li> </ul> <p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度は『コロナ後』で直接的な関わりの機会が増えることも予想されるが。一方で I C Tも活用したより頻繁な交流の仕方の模索も続ける。</li> <li>・『あいさつ運動』をK K Pの取組の重要なものと位置づけ、保護者の方々と共に取り組む。</li> <li>・日常の『子どもたちの育ち』をお知らせする際に、『地域との交流の中で育つ姿』などと別項目を立てて、保護者の方にもわかりやすく伝えられるようにする。</li> </ul>
学校 関 係 者 評 価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・徐々に、地域行事や学校行事も、コロナ前の状況に戻ってきてるので、さらにその中の『育ち』を保護者の方自身が『実感』される機会も多くなると思われる。</li> <li>・園からも、様々な新しい形の『関わり』の在り方を提案していってほしい。</li> </ul>

## (6) 教職員の働き方改革について

重点目標	<p>前年と比べ、すべての教職員の超過勤務時間を削減し年休等の取得率を上げる。</p> <p><b>具体的な取組</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の教職員が『働き方改革』の意義を理解し、常に意識して業務を行う。</li> <li>・業務の中で、時間をかけて行うものと効率化を図るものメリハリをつける。</li> <li>・常に見通しをもって業務にあたり、必要な時には自らサポートを求めたり、他をサポートしたりする</li> <li>・保護者の方々や地域の方々にも『働き方改革』の意義をお知らせし、ご理解いただく。</li> </ul> <p><b>(取組結果を検証する) 各種指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の勤務時間の推移・年休や特休の取得率</li> </ul>
------	---

## 中間評価

	<p><b>各種指標結果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の勤務時間の推移・・管理職は-10時間・その他教職員は-3時間/月</li> <li>・年休や特休の取得率・・ほぼ昨年並み</li> </ul>
自己評価	<p><b>分析 (成果と課題)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度も、コロナ対応や教職員の異動・新任者の着任、教育活動の新規の取組などで、超過勤務時間の減少が難しい状況ではあったが、徐々に減少してきている。</li> </ul> <p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・さらに、特に保育に関わること以外の、一人一人の業務の効率化への見直し、案件ごとに協議</li> </ul>

	<p>が必要か、文書共有で可能かの見極め、教職員間での業務の分担の見直しなどを進める</p> <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教職員の勤務時間の推移・年休や特休の取得率</li> </ul>
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>より良い『教育活動』のために、また教職員もそれぞれの地域で貢献するために・・働き方改革は欠かせないことであるので、引き続き、園の取組を続けていってほしい。</li> </ul>

### 最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教職員の勤務時間の推移 管理職は昨年に比べ大幅に減少している。他の教職員は前期に比べての減少は難しい状態であった。</li> <li>年休や特休の取得率 年休の取得日時数は増加している。</li> </ul>
自己 評 価	<p>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>経験年数の関係や初めての担当学年であることなどが影響し、管理職以外の教職員の勤務時間減少は難しかった。</li> <li>時間休の取得を効率的に行うことができるので、引き続き計画的に業務を行うことと、教職員全員が、互いの業務を補い合えるシステムや関係作りを大切にする。</li> </ul> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、豊かな保育創造のために欠かせない業務の時間を十分に確保するとともに、個々の教職員の業務の効率化を図る。また教職員間での業務の分担の見直し・1週間1か月先を見据えた計画的な業務の進め方などについても定期的に全員で見直す機会をもつ。</li> </ul>
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の行事なども再開されつつあり、大切な取組であることも十分認識しつつ、引き続き管理職を含めすべての教職員が、いきいきと『余裕』をもって保育に迎える体制つくりを応援していきたい。</li> </ul>